

## 第3学年 道徳学習指導案

<場 所> 3年1組教室

<授業者> 井畑 愛里子

1. 主題名 節度ある生活 1 - ( 1 )

2. 資料名 友だちのしょうこ

3. 主題設定の理由

( 1 ) 児童の実態と指導の意図

2年間金銭教育を行ってきて、学校で使う自分の持ち物を大切にできる児童が増えてきた。筆入れの中の文具に名前を書いたり、鉛筆を短くなるまで大切に使用したりして、ものを大切にする意識が高まっている。お金の使い方については、3年生の6月に「お金の使い方を考えよう」という単元でお金の生まれ方や価値(重み)について体験を通して学習し、今までの自分のお金の使い方を振り返ることを通して、これからのお金の使い方のめあてを立てた。定期的にお小遣いをもらっている児童は27人中6人ほどで、ほとんどの児童は自分で計画的にお金を使う経験をしていない。しかし、家族の買い物について行ったり、休みの日にショッピングセンターに出かけて、ほしいものをねだったりすることが多い。また、男子の中では「カードゲーム」が流行しており、カードを持っていないと友達と遊べないと言ってカードをほしがり、驚くほどたくさんのカードを持っている児童もいる。

( 2 ) ねらいとする価値について

この資料は、新しくできた文房具屋に友達と出かけた主人公が、友達のしょうことしておそろいの筆箱を買おうと友達に誘われ、家に帰って家族にねだるが、父の子どものころの話聞いて買うのをとどまり、友達にも「買うのをやめるわ。」と伝えるという話である。主人公のすてきな筆箱がほしいと思う気持ちや母の言葉に対する不満(内面にある弱さ)に共感させたい。その上で、父の体験談を聞き、その筆箱が本当に必要なものなのか振り返る主人公の心から、物欲や購買欲のままに買うのではなくよく考えて買うことの値打ちに気づかせ、わがままをしないでものやお金を大切にする心情を養いたい。

( 3 ) 金銭教育との関わり 【金銭教育 めざす子どもの姿 1 - 】

児童の実態でも書いたように、友達の持っているものに興味関心が高く、特に遊びの中で同じものをほしがって親にねだる児童が多い。また、見るとほしくなるような商品がショッピングセンターやおもちゃ屋にあふれている。子どもたちは体験活動を通してお金の生まれ方を知り、大変な思いをして家の人が働いてもらえるお金だからこそ、無駄遣いをしないで大切に使用したいという意識をもった。しかし、実際にお金を使う場面になると、ほしいという欲求に負けて、実践力までは身につけていない児童が多い。これから高学年に向かって、自分でお金を管理して使っていくだろうと思われるこの時期、見かけに惑わされずに自分に必要なものを選んで、よく考えてものを買う意識を高めていきたい。

#### 4. 主題構成表

主題名 節度ある生活

資料名 「友達のしょうこ」

<p>内容項目 1 - (1)</p> <p>自分でできることは自分でやり、節度のある生活をする。</p>	<p>価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・人の物欲や購買欲をわきたたせる情報が氾濫している。子どもたちの周りの環境も同じで、次から次へと新しいゲームやカードなどが発売され、それらに対する子どもたちの物欲や購買欲も限りがない。</li><li>・児童は、ほしいと思ったものを比較的簡単に手に入れる。買ったたり買ってもらったりするとき、そのお金を得るために家の人やだんなに一生懸命働き、どんな気持ちでお金を出してくださっているかを考えることが少ないからである。そこで、大切に使うしてほしいと願って買ってくださる人の心に気づかせることが大切である。</li><li>・友だちにさそわれたから、みんなが持っているから買うのではなく、それが自分にとって本当に必要なものであるかどうかよく考えて買うことへの実践意欲をもたせていきたい。</li></ul>	<p>資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まゆみはさち子に、友達のおしょうことして、「筆箱をいっしょに買ってそろそろいしよう。」と言われる。見た目もかわいいし、今までに見たことのないような商品に心を動かされ、さらに友達のおしょうこにということだからどうしてもほしいという気持ちが高まっていく。だめという母に反発する気持ちや筆箱が欲しいという欲求を引き出すことができる。</li><li>・父の「自分も子どものころ、新しいグローブをねだったが、母親が古いグローブをみがいてくれた。」という話を聞いて、筆箱が自分にとって本当に必要なものなのか考え、「筆箱を買うのをやめるわ。」とさち子に話す。このまゆみの姿から、わがままをしないで使えるものを大切に使うことが物や買ってくれた人の心を大切にすることだと感じ取らせることができる。</li></ul>
<p>ねらい</p> <p>父の子どものころの話や、自分の言動を振り返っている主人公の気持ちを通して、わがままをしないで使えるものを大切に使うことが、ものや買ってくれた人の心を大切にすることだと気づき、ものやお金を大切にすることを養う。</p>		
<p>展開の構想</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分の生活経験から、欲しいものがあつた時の気持ちを思い出すことで、まゆみが筆箱を欲しいと思う気持ちや母の言葉に反発する気持ちに共感させる。</li><li>・父の子どものころの話や、その筆箱が自分にとって本当に必要なものかどうか考えるまゆみの心情を引き出し、ねらいとする価値に迫る。</li><li>・展開後段ではまゆみさんと同じようによく考えてものやお金を大切にできたことや、よく考えずに大切にできなかったこと振り返らせ、どういった思いからそうしたのか表現することを通して、さらに自分を深く見つめさせていく。</li></ul>	<p>基本発問(中心発問)</p> <p>すごくかわいい筆箱を見て、さち子に「いっしょに買ってそろそろいしよう。」と言われた時、まゆみはどんなことを考えたでしょう。かわいい筆箱をそろそろで買いたいのにお母さんに「よく考えなさい。」と言われた時、まゆみはどんなことを思ったでしょう。お父さんの子どものころの話や、まゆみはどんなことを考えたでしょう。</p> <p>まゆみは、どんな気持ちで「やめるわ。」と言ったのでしょうか。まゆみさんと同じようによく考えてものやお金を大切にできたことや、よく考えずに大切にできなかったことはありませんか。</p>	

## 5. 本時のねらい

父の子どものころの話を聞いて、自分の言動を振り返っている主人公の気持ちを考えることを通して、わがままをしないで使えるものを大切に使うことが、ものや買ってくれた人の心を大切にすることだと気づき、ものやお金を大切にすることを養う。

## 6. 本時の展開

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>欲しいなあと思うものや買ったんだけどもったいないなあと思うものを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいゲームのソフトがほしいな。</li> <li>・急に欲しくなって買ったおもちゃがあるんだけど、今使っていないもったいないな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活を振り返り安心して語り合えるよう、思いを共感的に受け止める。</li> </ul>
展開前段	<p>資料「友だちのしょうこ」を読む。</p> <p>すごくかわいい筆箱を見て、さち子に「いっしょに買っておそろいにしよう。」と言われた時、まゆみはどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいい！わたしもほしいな。      ・賛成。お母さんに頼んで買ってもらおう。</li> <li>・おそろいにできたらうれしいな。</li> </ul> <p>かわいい筆箱をおそろいで買いたいのにお母さんに「よく考えなさい。」と言われて、まゆみはどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんはぜんぜんわたしの気持ちを分かっていない。</li> <li>・せっかくさち子さんと約束をしたのに...      ・おばあちゃんは買ってくれるって言ったのに...</li> <li>お父さんの子どものころの話を聞いて、まゆみはどんなことを考えたでしょう。</li> <li>・お父さんもわたしと同じようなことがあったんだ。</li> <li>・買ったばかりの筆箱を大事に使ったほうがいいな。・あの筆箱は本当に必要なものじゃないな。</li> <li>まゆみはどんな気持ちで「やめるわ。」と言ったのでしょうか。</li> <li>・おそろいでなくても、まだ使えるものを大切に使えばいい。</li> <li>・友だちにつられないで、物を大切にしたいほうがいい。</li> <li>・お母さんがわたしのために買ってくれた今の筆箱を大切にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の確認をし、挿絵を使って、資料の内容を全員が理解できるようにする。</li> <li>・どの子のどんな発言からも価値を見出す聞き方に努め、具体的な言葉で価値付けていく。</li> </ul> <p>&lt;補助発問&gt;</p> <p>まゆみはどんな気持ちで、筆箱がほしいと思ったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんに対する反発の気持ちを十分出すことで、新しい筆箱がどうしてもほしいという気持ちに共感させる。</li> </ul> <p>おばあちゃんはどんな気持ちでグローブを磨いたと思いますか。</p> <p>あれだけほしいと言っていたのに、なぜ「やめる。」と言えたのかな。</p>
展開後段	<p>まゆみさんと同じように、よく考えてものやお金を大切にできたことや、よく考えずに大切にできなかったことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お店にいったらほしいものがあったんだけど、<u>今日買おうと決めていたものでなかったから</u>、がまんした。</li> <li>・新しい自転車はほしかったけど、<u>お姉さんからもらった自転車はまだ使えるから</u>、がまんして使っている。</li> <li>・たくさんカードを持っているんだけど、<u>いいカードがほしくて</u>、何度も買ってもらっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートに一人ひとりが書く。</li> <li>・どういう思いからそうしたのか表現する（発言を問い返していく。）ことを通して、さらに自分を深く見つめさせていく。</li> </ul>
終末	<p>教師の説話</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の父母のこの資料のような体験を説話として紹介する。自分やお父さんお母さんの中にも、主人公と同じ価値があることを感じ取らせたい。</li> </ul>